

創立144周年

学校便り

令和2年度 No.11



進取

令和3年3月22日発行

阿久根市立阿久根小学校
25学級 児童数447名

信頼と絆

～一年間の感謝の気持ちを込めて～

校長 秦 明夫

「校長先生の教え子のA先生が、校長先生によろしくと言っていました。」一週間ほど前、A先生と以前同じ学校で親しかった本校のB先生からの伝言でした。

A先生は、私が教員一年目で4年生を担当したときの教え子でした。運動神経が抜群で、中学校の体育教師の道を選びました。A先生の話が出たことで、ふと何十年も前の教師になったばかりの頃を思い出しました。「今度の日曜日は先生のアパートに遊びに行こう」4年生というやんちゃなギャングエイジです。A先生（4年生時）も含め、たびたび4・5人の仲良しグループが私のアパートに遊びに来ました。夏の暑い日も片道4kmある道を汗だくになりながら歩いてくるのです。特に遊び物もない私のアパートでしたが、子供は遊びの天才、半日ほど何かしら遊んで、盛り上がり帰って行きました。今思えば、新米教師で勉強の教え方は未熟でしたが、子供たちとのふれあいと絆だけは、満点に近かったかも知れません。

古き良き時代？とでも言えるのでしょうか。今であれば子供たちの行き帰りの安全を考えただけでも、あり得ないことです。

世の中は、驚くほど便利になり、教育も大きく変化してきました。「知らない人には、自分からは声を掛けない」「川には子供だけでは遊びに行かない」など、子供たちの安全面を考えたら仕方ないことですが、複雑な心境です。先生方においても、学力の向上、いじめや不登校への対応、個人情報の管理など多くの教育的課題を抱えながら緊張感をもって校務に当たる今日です。

そのような中、卒業・進級を間近に控え、保護者の方から「〇〇先生には、本当にお世話になりました。」という言葉をいただくことがあります。私にとって職員を褒めていただくことほどうれしいことはありません。1年間の先生方の取組や思いが、子供たちや保護者の皆様にしっかり届き、信頼・感謝という果実を実らせてくれたのだと思います。子供たちや保護者の皆様との絆を喜びに感じるのは、いつの時代であっても同じです。教育に携わるものの一番の喜びです。

子供たちは卒業、修了の日をまもなく迎えます。コロナ禍であっても一人一人が大きく成長してくれました。保護者や地域の皆様には、本校の教育活動へのご理解とご協力で心から感謝申し上げます。

令和3年度も、信頼される学校・教職員を目指して、より一層努力してまいります。

新しい教育の風・・・GIGA(ギガ)スクール、C・S(コミュニティ・スクール)

○GIGA(ギガ)スクール構想

これは子供一人に一台ずつタブレットなどのICT機器を与え、活用を図るといふ国の施策の一つです。現在、本校でも整備が進められているところです。確かな学力や豊かな心を育むためのツールとして活用の充実を図っていきたく思います。

○C・S(コミュニティ・スクール)

3月の阿久根市の市報にも掲載されましたが、令和3年度から阿久根市の全小中学校がコミュニティ・スクールの指定を受けました。このC・Sは、保護者や地域の方々との連携をさらに深め、教育活動を充実させていくための取組です。詳しくはC・Sだより等を発行しお知らせしていく予定です。

